

本美濃紙 / 繊維の加工

植物繊維から紙を作るには、まず、楮（こうぞ）の白皮を水に浸し、ソーダ灰で煮て柔らかくします。こうしてできた繊維は絹のようになります。外皮の不純物がまだ残っている場合は、紙の概観に影響を与えてしまうため、塵取りと呼ばれる手作業で取り除きます。繊維は流水で丁寧に洗います。従来、塵取りは何時間も小川にかがんで行われる作業でしたが、現在では、清水が流れ込む高めの水桶に座って作業が行われます。熟練した人なら、1日に1～2キロの繊維を確認することができます。

不純物を取り除いたら、きれいになった繊維を2本の木槌で叩いて、長さがあまり短くなりすぎないように気をつけながら、繊維を裂いたり切ったりして分離させます。繊維が長いほど丈夫で滑らかな紙ができることから、この工程はとても大切です。手打ち道具は地域により異なっていて、長い棒から美濃で用いられる太い木槌までさまざまです。丈夫な松の木からできていて、打面には菊の花模様が放射状に彫られていることから、効率よく繊維をほぐし、繊維が木槌の表面に付着しないよう工夫されています。